

3.2.11 タイ自然言語ラボラトリー

中期計画期間全体

目 標

アジア言語に関する研究開発を通して、アジア圏の共同研究の拠点となるとともに、デジタルデバイド解消のためのシステム開発を行う。

目標を達成するための内容と方法

けいはんな情報通信融合研究センター（自然言語グループ）の支援の下で、研究開発を行う。また、アジア地区の研究者や学生を集めて研究開発及び技術移転を行う。

特 徴

アジアにおいて経済的には日中韓に次ぐ位置を占め、また、地勢的にも南アジア地区の中心であるタイに海外拠点を置き、日本国内の研究資産を活用し、近隣諸国と共同することにより、アジア圏の研究開発能力を集中した、積極的な研究開発を実施する。

今年度の計画及び報告

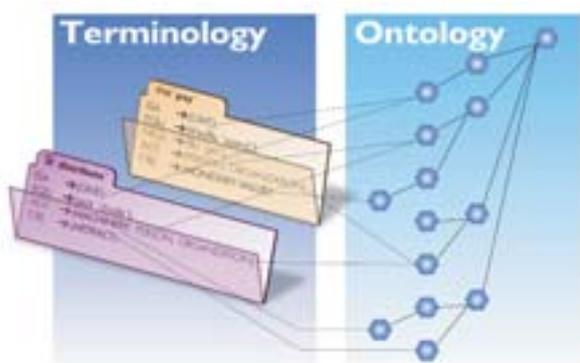
今年度の計画

アジア言語に関する研究開発を進め、アジアにおける自然言語処理の研究拠点をを目指す。また、近隣諸国との協力関係を確立し、タイ自然言語ラボラトリーの認知度を高める。このため、以下の活動を行う。

- (1) アジア言語辞書の研究開発：コーパスを用いた辞書開発のツールを開発し、辞書開発を行う。関連の知見を持つ国内外の機関との交流を進める。
- (2) 定型データからの情報抽出の研究：個人情報のデータベースに対し、自然言語処理技術を活用したユーザフレンドリな検索ツールを開発する。
- (3) オープンソースソフトウェア及びデータの普及：文書フォーマット等の標準化及びサーバーサービスの検討を進める。
- (4) 学習支援に関する研究：自然言語グループと合同で、外国語学習支援システム及びデータの開発を行う。
- (5) 自然言語処理技術の普及・広報：関連機関との研究交流及び東南アジア諸国への広報活動を行う。
これらの研究開発の実現のため、現地研究者を追加雇用するとともに、言語資源開発作業の外注を進める。

今年度の成果

- (1) タイ語辞書 TCL レキシコンの開発を進めた。辞書構築支援システムの開発と、知識（文書）の自動分類の研究を行った。名刺データベースの管理、公文書サーバーの構築の研究を行った。オープンソースソフトウェアの普及に努めた。多言語電子図書館や学習支援の研究を行った。デモ用システムの開発を行った。
- (2) 現地での研究が軌道に乗ったことに伴い、更なる進展のために、7月から新規に2名のタイ人研究者を雇用した。
- (3) 自然言語グループと協調して研究を進めるため、11月にけいはんなにおいて、交流会を開催した。
- (4) 近隣諸国への技術移転を目指して、ミャンマー・ベトナムとの交流（相互訪問）を行った。12月にはミャンマーを対象に、Linux セミナーを開催した。10月にはアジア圏の文書の標準化を目指し DocSII 会議を開催した。
- (5) 研究成果の広報としては、4月にラボの成果を広報する発表会を開催した。センター1周年記念式典、ICT エキスポ等において、講演・デモを行った。また、国際会議や誌上論文として発表した。3月には二度の講演発表を日本国内において行った。



TCL レキシコンは単語辞書 (Terminology) と概念階層 (Ontology) を組み合わせた有機的な辞書である。レキシコン作成用の支援ツール (右図) を作成し、辞書開発を行っている。